

浜の活力再生プラン  
令和 6～10 年度  
第 3 期

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会西二見部会
代表者名	山本 章等（西二見漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	西二見漁業協同組合、明石市（農水産課）、兵庫県東播磨県民局加古川農林水産振興事務所
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	兵庫県明石市二見町西二見地域（西二見漁業協同組合） ノリ養殖漁業（23名）、小型底曳網漁業・五智網漁業（24名）、 釣り漁業他（14名）延べ61名（兼業含む） 漁業者35名 （令和5年10月31日現在）
-------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>本地域は兵庫県南東部の東播磨地域に位置し、市内最西端に位置する歴史のあるまちである。また、地先の播磨灘には、明石海峡の激しい潮流によって、「鹿ノ瀬」と呼ばれる広大な浅瀬が広がり、日本有数の豊かな漁場を形成している。これらの豊かな漁場の恩恵を受け、四季折々に様々な魚介類が水揚げされるが、なかでも「明石鯛」や「明石だこ」は全国的に知名度も高い。大阪、神戸が商圏内にあり、生産地と大消費地が近くにあることもひとつの特徴である。</p> <p>漁業種別としては、漁船漁業とノリ養殖業が主である。漁船漁業では、小型底曳網漁業・五智網漁業が中心で、主な漁獲物はマダコ、マダイである。水揚げされる魚介類の流通については、地元仲買業者への販売や漁業者自身が市の公設市場などへの出荷を行っている。</p> <p>漁船漁業における魚介類の単価はマダコを除く大半の魚種で下落傾向がみられ、主要となるマダコについても単価は上昇してはいるが、漁獲量の減少が著しいことが要因であり、生産金額の低下に歯止めがかからない状況である。その他魚種の漁獲量もおおむね減少している一方で、マダイに関しては比較的漁獲が増えているが、漁獲の多い時期に供給量に対する需要量が伴わず安価で取引される傾向にあり、燃油使用量も多くなることから大きな所得の増加に繋がっていない。</p> <p>また、全国的な魚離れやコロナウイルス拡大影響による外食離れからの消費減退、量販店主導による価格設定、産地仲買人の取扱量の減少など様々な要因によって産地における魚価の低落を加速化させている。消費者が魚の名前も分からない、食べ方も知らない等、魚食文化自体の劣化といった実態も浮かび上がっているために、現状として需要競争による魚価向上が見込めていない。</p> <p>ノリ養殖業は当地域で盛んであり、冬季の水揚額の大半はノリ生産によるものである。地域内で生産されるノリは「明石のり」として流通するものもあるが、その多くは業務用として流通し、市場での「明石のり」としての認知度はそれほど高くなく、業務用が主体となるため比較的安価な単価で取引されることが多い。</p> <p>また、水温上昇による生産時期の短縮や海域の栄養塩不足による色落ち等による不安は年々増してきている。海況の状況が生産するノリの品質や生産枚数に直結しているため、自然に左右される不安を取り払うことはできず、品質の良いノリが生産できたとしても他産地の生産状況やそれに伴う相場など外部要因の影響を受けることが多々あり、ノリの品質向上と価格上昇が比例しにくい現</p>
--

象も起きている。そのため単価が抑えられる傾向にある業務用主体のノリづくりではなく、商社や消費者から指名を受けられるような特質をもつノリづくりが求められている。

漁船漁業、ノリ養殖業ともに課題は絶えないが、明石で獲れた水産物が鮮度や品質の良いものであることを広く知ってもらうことで付加価値を生むこと、また、海の資源が枯渇してしまわないよう、できる限りの資源増大を目指し豊かな海づくりに向けた取り組みをすることは、以前からもなされているがこれまで以上に必要となってくる。

## (2) その他の関連する現状等

西二見地域は明石市内でも西端に位置し、魚の棚商店街や飲食店が建ち並ぶ市街地のように地域資源が活かされず、にぎわいに繋がっていない。単一地域の活性化に取り組むことは難しいため、少しでも地域資源が活用されるよう県や市、他の漁協と連携をとりつつ、明石市全体の活性化に繋がられる行事や販売行事へ積極的に参加することが必要である。

就業面では漁業用資材及び燃料価格の高騰、高止まりにより漁業経費が増加し収益が減少傾向にあり、海況や漁況の変化を受けやすく労働条件に恵まれない環境でもあるため、新規就労者の減少による後継者不足、漁業者の高齢化による廃業が進行している。

## 3 活性化の取組方針

### (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

### (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

#### 1 漁業収入向上のための取組

##### (1) ノリ生産量及び生産額の増大

- ・乾燥機、ノリタンク、船舶等を大型化、更新する。
- ・一期作を継続し栄養塩不足による色落ちへの対応、生産ロス削減を図る。

##### (2) 魚価向上や高付加価値化

- ・冷水機等、鮮度保持のための機器を導入し魚価向上を図る。
- ・明石産の水産物PRに繋がる活動へ参加し、地元特産品としての価値向上を図る。
- ・ノリ商社を訪問し、商社の需要調査とPR活動を行うことで価格の向上に繋げる。

##### (3) 環境・生態系の保全と漁場の管理

- ・稚魚放流や子持ちダコの再放流、タコつぼの投入等で資源増加を図る。
- ・明石のタコ釣りルールを一般者へ周知させ減少したタコの保全に努める。
- ・禁漁区及び休漁期間設定により操業自主規制を推進し漁場管理を行う。
- ・海底耕耘、かいぼりを継続するとともに、海の栄養や底生生物増加を目指した取り組みを行う。
- ・海岸清掃、餌木の回収等による環境保護のための活動を実施する。

##### (4) 海業（遊漁船業）による漁業者の収入拡大の取組

- ・HP及びSNSを活用して遊漁船業の営業案内を発信し、遊漁船利用者の拡大を図る。
- ・遊漁船利用者にスタンプカードを渡し、特典を付与することでリピーター獲得を図る。
- ・遊漁船利用者にタコの放流を促し、資源保全を図る。
- ・遊漁船部会構成員として、遊漁船利用者に募金を呼びかけ、集まった資金でタコを増やすための活動を実施する。
- ・遊漁船部会構成員として、HP及びSNSを活用し一般者へタコ釣りルールや募金活動、放流活動等の情報発信を積極的に行うことで資源の維持に貢献する。
- ・遊漁船部会として独自に操業期間、操業時間等を設定し、資源保護のための規則を設けることで、漁業者の営む遊漁船業者の価値を高める。

#### 2 漁業コスト削減のための取組

##### (1) 燃油の急騰に対する備え

- ・セーフティーネット構築事業の継続を推進し燃油急騰時の負担軽減を図る。

## (2) 省燃油活動の推進

- ・老朽化したエンジンを更新し省エネ性能を向上する。
- ・漁船の定期的なメンテナンス、船底清掃履行により燃油消費量削減を図る。
- ・減速航行、係留中の機関停止、不要不急な積載物の削減等、省燃油に繋がる活動を継続実施し燃油消費量削減を図る。

## 3 漁村の活性化のための取組

### (1) 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保

- ・経営体育成総合支援事業を有効活用し新規就業者を積極的に受け入れる。
- ・役員8名を中心として指導的漁業者となるためまたは漁業関連の見識を広げるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。

### (2) その他の取組

- ・学校園へ出張授業等により地元水産物の認知度向上を図り、地魚を学校給食へ提供することで魚食普及を推進する。

## (3) 資源管理に係る取組

- ①採業隻数、期間等の規制遵守による資源へ与える負荷の抑制  
(漁業法、兵庫県漁業調整規則、瀬戸内海広域漁業調整委員会指示)
- ②兵庫県知事が認定した資源管理協定に基づく自主的資源管理措置の実施による資源保護  
(五智網漁業)
- ③共同漁業権行使規則に基づく制限の徹底による資源保護
- ④持続的養殖生産確保法に基づくのり養殖漁場改善計画を策定し、張込柵数の制限を行い、持続的な養殖生産の確保を図る。
- ⑤漁獲物の制限  
マダイ : 全長13センチ以下再放流  
ヒラメ : 全長25センチ以下再放流  
マコガレイ : 全長16センチ以下再放流  
メイタカレイ : 全長16センチ以下再放流

## (4) 具体的な取組内容

1年目(令和6年度) 所得向上率(基準年比) 3.3%

漁業収入向上のための取組	<p>魚価向上や高付加価値</p> <p>(1) ノリ生産量及び生産額の増大</p> <p>①補助事業を活用した大型ノリ自動乾燥機の導入を検討する。1水産で更新を実行することで生産枚数を増大させ、老朽化した乾燥機を更新することにより、機械性能を向上させ品質向上を図る。</p> <p>②刈取船、ノリタンク等を大型化、或いは増やすことでノリ積載量と貯蔵量を増大させ、ノリがより良い状態の際に刈り取り貯蓄できる量を増やし、収穫ロス削減と品質向上による単価向上を図る。</p> <p>③漁協はノリ自動乾燥機の稼働時間・温度の管理等による経費削減を指導する。</p> <p>(2) 魚価向上や高付加価値化</p> <p>①明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持する取組を拡大していく。</p> <p>②漁協は明石市漁業組合連合会(以下、「明石市漁連」と記載)として行政等と連携を取り、明石ノリ祭りといった地元水産物に関連するプロモーション活動へ参加することで、まだ認知度の低い一般消費者へ向けて情報を発信し、明石産品の販路拡大や消費拡大に繋げる。</p> <p>③漁協は兵庫県漁連、漁業者と協力し、ノリ商社への訪問実施を継続することでノリの消費動向、需要を調査し改善の余地がないか検討するとともに、当地域が生産したノリの良さをPRすることで単価の向上に繋げる。</p> <p>(3) 環境・生態系の保全と漁場の管理</p>
--------------	--

	<p>①海底耕耘は海底に溜まった栄養を海中に溶出させることや、底質改善による底生生物増加を目的としており、水産多面的機能発揮対策事業を活用した事前と事後のモニタリング調査によって、底生生物増加に一定の効果がみられているため継続して実施する。</p> <p>②ため池のかいぼりは、ため池底の泥が海に必要な栄養を含み、それを海へ放出することで豊かな海づくりに有効と考えられることから、明石市市漁連として積極的に参加し、農業者とも連携しながら継続的に活動する。</p> <p>③明石市市漁連としてタコの隠れ処・産卵処となるタコつぼ投入を継続して行い、抱卵している「子持ちタコ」が入ったタコつぼを母タコごと海に戻す「子持ちタコ再放流事業」に取り組む。</p> <p>④明石市漁場管理委員会として年1回から2回、一般者ボートが明石市沿岸でのタコ釣りルールを守っているか海上を巡回し、ルール記載のチラシを配ることでタコの保全に努める。</p> <p>⑤マダコ資源保護のため、小型底引き協議会として子持ちの親タコをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。 マダコの資源増大の取組については、近隣組合と連携してより良い手法を検討しながら実施していく。</p> <p>⑥行政と連携し稚魚放流や資源管理等に積極的に取組むことにより、資源の増大を図る。</p> <p>⑦漁業者は網などにかかってきた海中に放置されている餌木を回収し、明石市漁連の取組により適正に廃棄することで環境を保全する。</p> <p>⑧年1回、漁業者は浜の清掃を実施することで環境保全に取り組む。</p> <p>⑨明石市漁連として海、底質の環境改善を図るために貝（スタレガイ）の散布を実施予定しており、散布後は漁業者による経過観察によって生息に適し繁殖しているかを確認していき、継続すべき有効な取り組みであるかを判断する。</p> <p>⑩ひょうご豊かな海推進研究会として行政や学識経験者等を交え、有機肥料による栄養添加試験を実施、調査、評価することで、底生生物増加や生態系保全に有効な手段となりうるか長期的に検討していく。</p> <p>(4) 海業（遊漁船業）による漁業者の収入拡大取組</p> <p>①遊漁船業者は利用者にスタンプカードを渡し、複数回利用する者に対して特典を付与することでリピーター獲得を図る。</p> <p>②収入拡大には、利用者が釣りを楽しむための資源を維持していくことが重要であることから、遊漁船業者は減少が著しいマダコの保護として操業期間や操業時間の制限、一般者へのタコ釣りルール遵守の呼びかけ、タコ増加に向けた活動目的の募金活動、放流活動などを遊漁船部会として行政や他漁協と連携し実施する。</p> <p>③遊漁船業者は遊漁船部会構成員として資源保護に向けた様々な活動を行い、活動内容をHP或いはSNSで情報発信することで、近年増えつつある資源保護に関心、理解をもった利用者の獲得に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 燃油の急騰に対する備え</p> <p>①漁協は漁業経営セーフティーネット構築事業へ加入継続を推進し、燃油の急騰に備える。</p> <p>(2) 省燃油活動の推進</p> <p>①老朽化した古いエンジンを更新することで修繕費削減に繋げ、省エネ性能の高い新エンジンへ更新することで燃油消費量削減を図る。</p> <p>②漁業者は減速航行を徹底し、係留中の機関停止、不要不急な積載物削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を継続実施し燃油消費量を抑制する。それに伴い、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業を活用し、経費負担軽減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <p>①漁業者は令和5年度経営体育成総合支援事業の活用により得た研修生1名を実践形式で育成し、技術ある新規就業者の確保に繋げる。</p> <p>②西二見漁協青年部に該当する漁業者は研修や視察会へ参加し、他漁協の漁業者</p>

	<p>と交流し漁業に関する見識を広げる。</p> <p>③役員8名を中心とした指導的漁業者はノリ養殖技術研修会、役員職員研修会等に参加し様々な分野の知識を深める。</p> <p>④漁村地域の指導者にふさわしい人材育成を目的として開設された「大輪田塾」へ漁業者1名が加入を検討しており、漁協は水産業発展に必要な人材を育成するために応募を促し推薦する。</p> <p>(2) その他の取組</p> <p>①漁協、漁業者は行政と連携し、近隣の学校への出前授業実施やタッチプール等のイベントへ参加し、漁業や魚をより身近に感じてもらうための活動に取り組む。</p> <p>①半夏生の日(雑節の一つ)にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するなど魚食普及活動を行う。</p>
活用する支援措置等	経営体育成総合支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、競争力強化型機器導入等導入緊急対策事業、浜の担い手漁船リース事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業(新リース事業)、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業

2年目(令和07年度) 所得向上率(基準年比) 6.5%

漁業収入向上のための取組	<p>魚価向上や高付加価値</p> <p>(1) ノリ生産量及び生産額の増大</p> <p>①前年度に更新した大型ノリ自動乾燥機により生産枚数を増大させ、機械性能向上により品質向上を図る。</p> <p>②刈取船、ノリタンク等を大型化、或いは増やすことでノリ積載量と貯蔵量を増大させ、ノリがより良い状態の際に刈り取り貯蓄できる量を増やし、収穫ロス削減と品質向上による単価向上を図る。</p> <p>③漁協は海苔自動乾燥機の稼働時間・温度の管理等による経費削減を指導する。</p> <p>(2) 魚価向上や高付加価値化</p> <p>①明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持する取組を拡大していく。</p> <p>②漁協は明石市漁連として行政等と連携を取り、明石ノリ祭りといった地元水産物に関連するプロモーション活動へ参加することで、まだ認知度の低い一般消費者へ向けて情報を発信し、明石産品の販路拡大や消費拡大に繋げる。</p> <p>③漁協は兵庫県漁連、漁業者と協力し、ノリ商社への訪問実施を継続することでノリの消費動向、需要を調査し改善の余地がないか検討するとともに、当地域が生産したノリの良さをPRすることで単価の向上に繋げる。</p> <p>(3) 環境・生態系の保全と漁場の管理</p> <p>①海底耕耘は海底に溜まった栄養を海中に溶出させることや、底質改善による底生生物増加を目的としており、水産多面的機能発揮対策事業を活用した事前と事後のモニタリング調査によって、底生生物増加に一定の効果がみられているため継続して実施する。</p> <p>②ため池のかいぼりは、ため池底の泥が海に必要な栄養を含み、それを海へ放出することで豊かな海づくりに有効と考えられることから、明石市市漁連として積極的に参加し、農業者とも連携しながら継続的に活動する。</p> <p>③明石市市漁連としてタコの隠れ処・産卵処となるタコつぼ投入を継続して行い、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。</p> <p>④明石市漁場管理委員会として年1回から2回、一般者ボートが明石市沿岸でのタコ釣りルールを守っているか海上を巡回し、ルール記載のチラシを配ることでタコの保全に努める。</p> <p>⑤マダコ資源保護のため、小型底引き協議会として子持ちの親ダコをノリセット</p>
--------------	--

	<p>内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。 マダコの資源増大の取組については、近隣組と連携してより良い手法を検討しながら実施していく。</p> <p>⑥行政と連携し稚魚放流や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。</p> <p>⑦漁業者は網などにかかってきた海中に放置されている餌木を回収し、明石市漁連の取組により適正に廃棄することで環境を保全する。</p> <p>⑧年1回、漁業者は浜の清掃を実施することで環境保全に取り組む。</p> <p>⑨明石市漁連として海、底質の環境改善を図るために貝（スタレガイ）の散布を継続実施し、漁業者による経過観察によって生息に適し繁殖しているかどうかを確認する。</p> <p>⑩ひょうご豊かな海推進研究会として行政や学識経験者等と連携し、有機肥料による栄養添加試験を継続して実施、調査、評価することで、底生生物増加や生態系保全に良い効果があるかどうかを明らかにしていく。</p> <p>（４）海業（遊漁船業）による漁業者の収入拡大取組</p> <p>①遊漁船業者は利用者にスタンプカードを渡し、複数回利用する者に対して特典を付与することでリピーター獲得を図る。</p> <p>②前年に引き続き、遊漁船業者は減少が著しいマダコの保護として操業期間や操業時間の制限、一般者へのタコ釣りルール遵守の呼びかけ、タコ増加に向けた活動目的の募金活動、放流活動などを遊漁船部会として行政や他漁協と連携し実施する。</p> <p>③遊漁船業者は遊漁船部会構成員として資源保護に向けた様々な活動を行い、活動内容をHP或いはSNSで情報発信することで、近年増えつつある資源保護に関心、理解をもった利用者の獲得に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>（１）燃油の急騰に対する備え</p> <p>①漁協は漁業経営セーフティーネット構築事業へ加入継続を推進し、燃油の急騰に備える。</p> <p>（２）省燃油活動の推進</p> <p>①老朽化した古いエンジンを更新することで修繕費削減に繋げ、省エネ性能の高い新エンジンへ更新することで燃油消費量削減を図る。</p> <p>②前年の結果を踏まえ、漁業者は減速航行を徹底し、係留中の機関停止、不要不急な積載物削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を継続実施し燃油消費量を抑制する。それに伴い、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業を活用し、経費負担軽減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>（１）意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <p>①令和5年度経営体育成総合支援事業の活用により加入した実習生1名の研修期間が終了するが、新規就業者として自立できるよう継続して育成していく。</p> <p>②西二見漁協青年部に該当する漁業者は研修や視察会へ参加し、他漁協の漁業者と交流し漁業に関する見識を広げる。</p> <p>③役員8名を中心とした指導的漁業者はノリ養殖技術研修会、役員職員研修会等に参加し様々な分野の知識を深める。</p> <p>④前年「大輪田塾」に加入検討されていた漁業者に対し、水産業発展に必要な人材となるための学びとなるよう、漁協は支援する。</p> <p>（２）その他の取組</p> <p>①漁協、漁業者は行政と連携し、近隣の学校への出前授業実施やタッチプール等のイベントへ参加し、漁業や魚をより身近に感じてもらうための活動に取り組む。</p> <p>②半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するなど魚食普及活動を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>経営体育成総合支援事業、漁業経営セーフティーネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、競争力強化型機器導入等導入緊急対策事業、浜の担い手漁船リース事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業</p>

漁業収入向上の  
ための取組

魚価向上や高付加価値

(1) ノリ生産量及び生産額の増大

①刈取船、ノリタンク等を大型化、或いは増やすことでノリ積載量と貯蔵量を増大させ、ノリがより良い状態の際に刈り取り貯蓄できる量を増やし、収穫ロス削減と品質向上による単価向上を図る。

②漁協は海苔自動乾燥機の稼働時間・温度の管理等による経費削減を指導する。

(2) 魚価向上や高付加価値化

①明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持する取組を拡大していく。

②漁協は明石市漁連として行政等と連携を取り、明石ノリ祭りといった地元水産物に関連するプロモーション活動へ参加することで、まだ認知度の低い一般消費者へ向けて情報を発信し、明石産品の販路拡大や消費拡大に繋げる。

③漁協は兵庫県漁連、漁業者と協力し、ノリ産地への訪問実施を継続することでノリの消費動向、需要を調査し改善の余地がないか検討するとともに、当地域が生産したノリの良さをPRすることで単価の向上に繋げる。

(3) 環境・生態系の保全と漁場の管理

①海底耕耘は海底に溜まった栄養を海中に溶出させることや、底質改善による底生生物増加を目的としており、水産多面的機能発揮対策事業を活用した事前と事後のモニタリング調査によって、底生生物増加に一定の効果がみられているため継続して実施する。

②ため池のかいぼりは、ため池底の泥が海に必要な栄養を含み、それを海へ放出することで豊かな海づくりに有効と考えられることから、明石市市漁連として積極的に参加し、農業者とも連携しながら継続的に活動する。

③明石市市漁連としてタコの隠れ処・産卵処となるタコつぼ投入を継続して行い、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。

④明石市漁場管理委員会として年1回から2回、一般者ボートが明石市沿岸でのタコ釣りルールを守っているか海上を巡回し、ルール記載のチラシを配ることでタコの保全に努める。

⑤マダコ資源保護のため、小型底引き協議会として子持ちの親ダコをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取組みを行う。  
マダコの資源増大の取組については、近隣組合と連携してより良い手法を検討しながら実施していく。

⑥行政と連携し稚魚放流資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。

⑦漁業者は網などにかかってきた海中に放置されている餌木を回収し、明石市漁連の取組により適正に廃棄することで環境を保全する。

⑧年1回、漁業者は浜の清掃を実施することで環境保全に取り組む。

⑨明石市漁連として海、底質の環境改善を図るために貝（スダレガイ）の散布を継続実施し、漁業者による経過観察によって生息に適し繁殖しているかどうかを確認し、今後も継続していくかを判断する。

⑩ひょうご豊かな海推進研究会として行政や学識経験者等と連携し、有機肥料による栄養添加試験を継続して実施、調査、評価することで、底生生物増加や生態系保全に良い効果があるかどうかを明らかにしていく。また、海藻養殖によるCO2吸収固定効果（ブルーカーボン）について有識者の話を聞き、ノリ・わかめの付加価値向上に向けた環境配慮型養殖業を目指す取組の可能性を探っていく。

(4) 海業（遊漁船業）による漁業者の収入拡大取組

①遊漁船業者は利用者にスタンプカードを渡し、複数回利用する者に対して特典を付与することでリピーター獲得を図る。

②前年に引き続き、遊漁船業者は減少が著しいマダコの保護として操業期間や操

	<p>業時間の制限、一般者へのタコ釣りルール遵守の呼びかけ、タコ増加に向けた活動目的の募金活動、放流活動などを遊漁船部会として行政や他漁協と連携し実施する。</p> <p>③遊漁船業者は遊漁船部会構成員として資源保護に向けた様々な活動を行い、活動内容をHP或いはSNSで情報発信することで、近年増えつつある資源保護に関心、理解をもった利用者の獲得に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>(1) 燃油の急騰に対する備え</p> <p>①漁協は漁業経営セーフティーネット構築事業へ加入継続を推進し、燃油の急騰に備える。</p> <p>(2) 省燃油活動の推進</p> <p>①老朽化した古いエンジンを更新することで修繕費削減に繋げ、省エネ性能の高い新エンジンへ更新することで燃油消費量削減を図る。</p> <p>②前年の結果を踏まえ、漁業者は減速航行を徹底し、係留中の機関停止、不要不急な積載物削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を継続実施し燃油消費量を抑制する。それに伴い、ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業を活用し、経費負担軽減を図る。</p>
漁村の活性化のための取組	<p>(1) 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <p>①漁業者は連携して組合に在籍する若手漁業者の育成を助け、次の育成者受け入れ体制を整える。また、周囲へ漁業の魅力を積極的にPRし新規就業者の確保に努める。</p> <p>②西二見漁協青年部に該当する漁業者は研修や視察会へ参加し、他漁協の漁業者と交流し漁業に関する見識を広げる。</p> <p>③役員8名を中心とした指導的漁業者はノリ養殖技術研修会、役員職員研修会等に参加し様々な分野の知識を深める。</p> <p>(2) その他の取組</p> <p>①漁協、漁業者は行政と連携し、近隣の学校への出前授業実施やタッチプール等のイベントへ参加し、漁業や魚をより身近に感じてもらうための活動に取り組む。</p> <p>②半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するなど魚食普及活動を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>経営体育成総合支援事業、漁業経営セーフティーネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、競争力強化型機器導入等導入緊急対策事業、浜の担い手漁船リース事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業</p>

4 年目（令和09年度） 所得向上率（基準年比） 12.9%

漁業収入向上のための取組	<p>魚価向上や高付加価値</p> <p>(1) ノリ生産量及び生産額の増大</p> <p>①刈取船、ノリタンク等を大型化、或いは増やすことでノリ積載量と貯蔵量を増大させ、ノリがより良い状態の際に刈り取り貯蓄できる量を増やし、収穫ロス削減と品質向上による単価向上を図る。</p> <p>②漁協は海苔自動乾燥機の稼働時間・温度の管理等による経費削減を指導する。</p> <p>(2) 魚価向上や高付加価値化</p> <p>①明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持する取組を拡大していく。</p> <p>②漁協は明石市漁連として行政等と連携を取り、明石ノリ祭りといった地元水産物に関連するプロモーション活動へ参加することで、まだ認知度の低い一般消費者へ向けて情報を発信し、明石製品の販路拡大や消費拡大に繋げる。</p> <p>③漁協は兵庫県漁連、漁業者と協力し、ノリ商社への訪問実施を継続することでノリの消費動向、需要を調査し改善の余地がないか検討するとともに、当地域</p>
--------------	---

	<p>が生産したノリの良さをPRすることで単価の向上に繋げる。</p> <p>(3) 環境・生態系の保全と漁場の管理</p> <p>①海底耕耘は海底に溜まった栄養を海中に溶出させることや、底質改善による底生生物増加を目的としており、水産多面的機能発揮対策事業を活用した事前と事後のモニタリング調査によって、底生生物増加に一定の効果がみられているため継続して実施する。</p> <p>②ため池のかいぼりは、ため池底の泥が海に必要な栄養を含み、それを海へ放出することで豊かな海づくりに有効と考えられることから、明石市市漁連として積極的に参加し、農業者とも連携しながら継続的に活動する。</p> <p>③明石市市漁連としてタコの隠れ処・産卵処となるタコつぼ投入を継続して行い、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。</p> <p>④明石市漁場管理委員会として年1回から2回、一般者ボートが明石市沿岸でのタコ釣りルールを守っているか海上を巡回し、ルール記載のチラシを配ることでタコの保全に努める。</p> <p>⑤マダコ資源保護のため、小型底引き協議会として子持ちの親ダコをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。 マダコの資源増大の取組については、近隣組合と連携してより良い手法を検討しながら実施していく。</p> <p>⑥行政と連携し稚魚放流や資源管理等に積極的に取組むことにより、資源の増大を図る。</p> <p>⑦漁業者は網などにかかってきた海中に放置されている餌木を回収し、明石市漁連の取組により適正に廃棄することで環境を保全する。</p> <p>⑧年1回、漁業者は浜の清掃を実施することで環境保全に取り組む。</p> <p>⑨明石市漁連として海、底質の環境改善を図るために貝（スダレガイ）の散布を継続実施し、漁業者による経過観察によって生息に適し繁殖しているかどうかを確認し、今後も継続していくかを判断する。</p> <p>⑩ひょうご豊かな海推進研究会として行政や学識経験者等と連携し、有機肥料による栄養添加試験を継続して実施、調査、評価することで、底生生物増加や生態系保全に良い効果があるかどうかを明らかにしていく。また、海藻養殖によるCO2吸収固定効果（ブルーカーボン）について有識者の話を聞き、ノリ・わかめの付加価値向上に向けた環境配慮型養殖業を目指す取組の可能性を探っていく。</p> <p>(4) 海業（遊漁船業）による漁業者の収入拡大取組</p> <p>①遊漁船業者は利用者にスタンプカードを渡し、複数回利用する者に対して特典を付与することでリピーター獲得を図る。</p> <p>②前年に引き続き、遊漁船業者は減少が著しいマダコの保護として操業期間や操業時間の制限、一般者へのタコ釣りルール遵守の呼びかけ、タコ増加に向けた活動目的の募金活動、放流活動などを遊漁船部会として行政や他漁協と連携し実施する。</p> <p>③遊漁船業者は遊漁船部会構成員として資源保護に向けた様々な活動を行い、活動内容をHP或いはSNSで情報発信することで、近年増えつつある資源保護に関心、理解をもった利用者の獲得に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>(1) 燃油の急騰に対する備え</p> <p>①漁協は漁業経営セーフティーネット構築事業へ加入継続を推進し、燃油の急騰に備える。</p> <p>(2) 省燃油活動の推進</p> <p>①老朽化した古いエンジンを更新することで修繕費削減に繋げ、省エネ性能の高い新エンジンへ更新することで燃油消費量削減を図る。</p> <p>②前年の結果を踏まえ、漁業者は減速航行を徹底し、係留中の機関停止、不要不急な積載物削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を継続実施し燃油消費量を抑制する。それに伴い、ALPS 処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業を活用し、経費負担軽減を図る。</p>

<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>(1) 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <p>①漁業者は連携して組合に在籍する若手漁業者の育成を助け、次の育成者受け入れ体制を整える。また、周囲へ漁業の魅力を積極的にPRし新規就業者の確保に努める。</p> <p>②西二見漁協青年部に該当する漁業者は研修や視察会へ参加し、他漁協の漁業者と交流し漁業に関する見識を広げる。</p> <p>③役員8名を中心とした指導的漁業者はノリ養殖技術研修会、役員職員研修会等に参加し様々な分野の知識を深める。</p> <p>(2) その他の取組</p> <p>①漁協、漁業者は行政と連携し、近隣の学校への出前授業実施やタッチプール等のイベントへ参加し、漁業や魚をより身近に感じてもらうための活動に取り組む。</p> <p>②半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するなど魚食普及活動を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>経営体育成総合支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、競争力強化型機器導入等導入緊急対策事業、浜の担い手漁船リース事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業</p>

5 年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比） 16.1%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>魚価向上や高付加価値</p> <p>(1) ノリ生産量及び生産額の増大</p> <p>①刈取船、ノリタンク等を大型化、或いは増やすことでノリ積載量と貯蔵量を増大させ、ノリがより良い状態の際に刈り取り貯蓄できる量を増やし、収穫ロス削減と品質向上による単価向上を図る。</p> <p>②漁協は海苔自動乾燥機の稼働時間・温度の管理等による経費削減を指導する。</p> <p>(2) 魚価向上や高付加価値化</p> <p>①明石ブランド向上に向け、活力を高い状態で保持させるため、冷水機を活用して水温を下げるなど温度管理を徹底し、港まで運ぶ。また、港から運搬車で、搬送する際も、水温を一定に保ち、コンテナの中に一匹ずつ仕切りをする等、獲れたままの品質を保持する取組を拡大していく。</p> <p>②漁協は明石市漁連として行政等と連携を取り、明石ノリ祭りといった地元水産物に関連するプロモーション活動へ参加することで、まだ認知度の低い一般消費者へ向けて情報を発信し、明石製品の販路拡大や消費拡大に繋げる。</p> <p>③漁協は兵庫県漁連、漁業者と協力し、ノリ商社への訪問実施を継続することでノリの消費動向、需要を調査し改善の余地がないか検討するとともに、当地域が生産したノリの良さをPRすることで単価の向上に繋げる。</p> <p>(3) 環境・生態系の保全と漁場の管理</p> <p>①海底耕耘は海底に溜まった栄養を海中に溶出させることや、底質改善による底生生物増加を目的としており、水産多面的機能発揮対策事業を活用した事前と事後のモニタリング調査によって、底生生物増加に一定の効果がみられているため継続して実施する。</p> <p>②ため池のかいぼりは、ため池底の泥が海に必要な栄養を含み、それを海へ放出することで豊かな海づくりに有効と考えられることから、明石市市漁連として積極的に参加し、農業者とも連携しながら継続的に活動する。</p> <p>③明石市市漁連としてタコの隠れ処・産卵処となるタコつぼ投入を継続して行い、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。</p> <p>④明石市漁場管理委員会として年1回から2回、一般者ボートが明石市沿岸でのタコ釣りルールを守っているか海上を巡回し、ルール記載のチラシを配ることでタコの保全に努める。</p> <p>⑤マダコ資源保護のため、小型底引き協議会として子持ちの親ダコをノリセット内に放流し一定期間禁漁とする取り組みを行う。</p> <p>マダコの資源増大の取組については、近隣組合と連携してより良い手法を検討</p>
---------------------	---

	<p>しながら実施していく。</p> <p>⑥行政と連携し稚魚放流や資源管理等に積極的に取り組むことにより、資源の増大を図る。</p> <p>⑦漁業者は網などにかかってきた海中に放置されている餌木を回収し、明石市漁連の取組により適正に廃棄することで環境を保全する。</p> <p>⑧年1回、漁業者は浜の清掃を実施することで環境保全に取り組む。</p> <p>⑨明石市漁連として海、底質の環境改善を図るために貝（スタレガイ）の散布を継続実施し、漁業者による経過観察によって生息に適し繁殖しているかどうかを確認し、今後も継続していくかを判断する。</p> <p>⑩ひょうご豊かな海推進研究会として行政や学識経験者等と連携し、有機肥料による栄養添加試験を継続して実施、調査、評価することで、底生物増加や生態系保全に良い効果があるかどうかを明らかにしていく。また、海藻養殖によるCO2吸収固定効果（ブルーカーボン）について有識者の話を聞き、ノリ・わかめの付加価値向上に向けた環境配慮型養殖業を目指す取組の可能性を探っていく。</p> <p>（4）海業（遊漁船業）による漁業者の収入拡大取組</p> <p>①遊漁船業者は利用者にスタンプカードを渡し、複数回利用する者に対して特典を付与することでリピーター獲得を図る。</p> <p>②前年に引き続き、遊漁船業者は減少が著しいマダコの保護として操業期間や操業時間の制限、一般者へのタコ釣りルール遵守の呼びかけ、タコ増加に向けた活動目的の募金活動、放流活動などを遊漁船部会として行政や他漁協と連携し実施する。</p> <p>③遊漁船業者は遊漁船部会構成員として資源保護に向けた様々な活動を行い、活動内容をHP或いはSNSで情報発信することで、近年増えつつある資源保護に関心、理解をもった利用者の獲得に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>（1）燃油の急騰に対する備え</p> <p>①漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入継続を推進し、燃油の急騰に備える。</p> <p>（2）省燃油活動の推進</p> <p>①老朽化した古いエンジンを更新することで修繕費削減に繋げ、省エネ性能の高い新エンジンへ更新することで燃油消費量削減を図る。</p> <p>②前年の結果を踏まえ、漁業者は減速航行を徹底し、係留中の機関停止、不要不急な積載物削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を継続実施し燃油消費量を抑制する。それに伴い、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業を活用し、経費負担軽減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>（1）意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <p>①漁業者は連携して組合に在籍する若手漁業者の育成を助け、次の育成者受け入れ体制を整える。また、周囲へ漁業の魅力を積極的にPRし新規就業者の確保に努める。</p> <p>②西二見漁協青年部に該当する漁業者は研修や視察会へ参加し、他漁協の漁業者と交流し漁業に関する見識を広げる。</p> <p>③役員8名を中心とした指導的漁業者はノリ養殖技術研修会、役員職員研修会等に参加し様々な分野の知識を深める。</p> <p>（2）その他の取組</p> <p>①漁協、漁業者は行政と連携し、近隣の学校への出前授業実施やタッチプール等のイベントへ参加し、漁業や魚をより身近に感じてもらうための活動に取り組む。</p> <p>②半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するなど魚食普及活動を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>経営体育成総合支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、競争力強化型機器導入等導入緊急対策事業、浜の担い手漁船リース事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）、ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業</p>

(5) 関係機関との連携

取組の効果が十分に発現されるよう、行政（兵庫県、明石市）、系統団体（兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県漁業共済組合等）、地域団体（明石市漁業組合連合会）等との連携を強固にし、地域一体での事業づくりを行う。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を確認するため、事務局が担い調べ作成した浜プラン達成状況（中間）報告書を評価原案として、年1回（6～7月）兵庫県地域水産業再生委員会西二見部会の構成員である明石市（水産課）、兵庫県東播磨県民局加古川農林水産振興事務所、部会代表者に報告し自らで評価する。また、連携して実施した活動に対しては然るべき機関による調査や報告、受けた提案指導をもとにその都度協議し、今後の取組改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の 向上10%以上	基準年	平成30年度～令和2 年度、令和4年度 4年平均	漁業者の所得 うち漁業所得
	目標年	令和10年度：	漁業者の所得 うち漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ノリ1枚当たり の単価	基準年	平成30年度～令和2年度、 令和4年度 4年平均：	11.89	円
	目標年	令和10年度：	12.25	円

新規就業者数の 増加	基準年	平成30年度～令和4年度 5年累計：	新規就業者数4	人
	目標年	令和6年度～令和10年度 5年累計：	新規就業者数6	人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

海苔生産枚数と水揚額が明確に分かる兵庫県漁連への出荷分から目標を設定することとし、ノリ養殖業の平成30年度～令和4年度5年平均で算出された水揚額基準値と、取組効果から現実的に可能となる水揚額向上率を考えた結果、令和10年度に水揚額10%向上が妥当であると判断した。10%を生産枚数と平均単価で適当となるよう割り振り、平均単価の向上率は6%が妥当であると判断した。

過去の新規就業者数は、平成30年度：1人、令和元年度：0人、令和2年度：0人、令和3年度：0人、令和4年度：3人（5年累計4人）となっている。令和6年度以降の目標として、主に漁業者の親族、知人、友人への呼びかけ、員外従事者に対しての漁協加入促進により、4人から1.5倍増した6人の新規就業者増員を図る

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
経営体育成総合支援事業（国）	内容：意欲ある若者が漁業に新規参入し、継続して漁業に携わるための環境を整えるとともに漁業の高付加価値化を担う人材を確保・育成する。 →後継者、新規就業者の不足を問題として掲げ、漁業を実践しながら漁業の高付加価値化、あるいは漁獲販売量増加を担う人材を育成することを活性化の基本方針の一つとして挙げている。
漁業経営セーフティネット構築事業（国）	内容：漁業者と国の拠出により燃油価格が高騰した際に補填金を交付する。 →漁業経費の増加に備えることで、燃油価格高騰時の経費削減による漁業収入安定を図り、漁業所得を確保する。
水産多面的機能発揮対策事業（国）	漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する活動に対し、一定の費用を国が支援する。 →干潟等の保全や生態系の保全による資源量の増大に向けた活動と強く関連性が生じると思われる。
競争力強化型機器導入等導入緊急対策事業（国）	内容：持続可能な収益性の高い操業体制を確立するため、省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入を行う漁業者を支援する。 →漁業収入向上と漁業コスト削減の取り組みを支える。
浜の担い手漁船リース事業（国）	内容：浜が連携して水産業の競争力強化を図るため、「浜の活力再生広域プラン」に基づき、浜の担い手の所得向上に係る取組に必要な中古漁船又は新造漁船の円滑な導入を支援する。 →漁業収入向上と漁業コスト削減の取り組みを支える。
水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）（国）	内容：持続可能な漁業実現のため、漁業者自らが行う収益性の向上と適切な資源管理又は漁場改善を両立させる取組に対し支援し、沿岸地域の構造改革を目指す。目的達成のために必要な漁船、漁具等のリース方式による導入を支援する。 →漁業収入向上と漁業コスト削減の取り組みを支える。
ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業（国）	内容：長期にわたるALPS処理水海洋放出の影響を乗り越え、漁業者の創意工夫によって、持続可能な漁業継続を実現するための取組支援。 →事業において漁業経営の改善に意欲的な漁業者が燃油消費量の削減、資材費の低コスト化、省エネ性能が優れた漁業用機器の導入等により、燃油・資材・エネルギー価格高騰に左右されない持続可能な漁業継続の支援が挙げられている。